







1.500F

* * * * * |

昭和▲6年▲月3日

特許庁長官 佐々木 学 駁



- 1、 考案の名称 ヘッドホーン 用スピーカボツクス (2014年)
- 2. 考 集 者 実用新実登録出願人に同じ
- 3. 実用新業登集出順人

が かかいげ シャンギラケ 埼玉県新庭市新堀梯 1 0 5

中島健

4. 代理人并要士

東京都標爲区標爲 6 丁目1 4 香1 5 号

(6815) 伊 都 和 三 即

5. 連幹書類の目無

1) 明 編 書 1 3

自然任故 13

(4) 出版等主請求書 2 通



47-19024-01

方式

46-024652



- 1. 考案の名称 ヘッドホーン用スピーカボック × の連結具
- 2. 実用新業登録請求の範囲

半円状の連結桿/の両側を、中継板2の先端の 超曲部3に穿散した質通孔4内にそれぞれ神入し、 この中継板2は略響曲状で先端を屈曲部3と改し て後端を外側に曲成して突出部3を一体に形成され、 該様長孔4内に把特部7を装設した螺子2を褶動 自在になるように挿入すると共にこの螺子3は制 配連結桿の先端附近に固着され、 左右両中継板2 の突出部5に降口状のスピーカボックス取行部9 をそれぞれ軸止/0したことを特徴とするヘッドホーン用スピーカボックスの連結具。

5. 考案の詳細な説明

本案は構成至極簡単で然も部品数が少なくてそ の組立も容易で然も被近の際の取扱いが極めて便 であり、スピーカボックスを確実に被配着の両耳



に当様できる構造を具有するヘッドホーン用スピ ーカボックスの連結具を提供するにある。

本案は上配の様な構成であり、半円状の連結様/と増曲状の中版板2の組立は、中機板2の組由 部3に穿散した質通孔4に連結様/の両端を挿入 して中額額2の中央に穿散した板長孔4に把持部



7 を装散した螺子 8 を挿入すると共化この螺子 8 を連結棒 / の先端付近に固着するだけで容易に組みたてることが出来、この把持部 7 を把んで中職 複 2 の中央に穿散した縦長孔 6 内に螺子 8 を上下方向に摺動させれば螺子 8 の摺動と 共に連結棒 / 6 可動する。

したがつて本案の連結具は把特部 ? を上トに掲動させるだけで連結學 / を申留自任にすることが出来るので、容易に被聴者の頭の大小に心して達結學 / の長さを選択出来る情めて取扱い連なるスピーカボックスの連結具が得られる。

又本案の連結其は中継板2の他端の尖出形すに 略口状のスピーカボックス取付配すをそれぞれ機 止10したので軸止10した個所でスピーカボックス 取付部すとすは遊動してスピーカボックス(関示 省略)も該取付部すとすと共に遊動するため優せ も楽化行えて被職者の耳に密接しやすい。

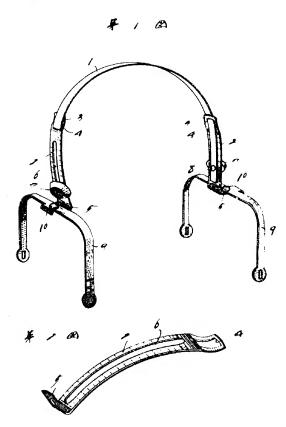
上記のように本案のスピーカボックスの連結及 は構成が至額簡単で然も商品数も少ない上に未動 録者にも容易にその組立が出来ると共に連結準の 長恒を容易に選択して側節出来て、被職の際の取扱いも便利などの幾多の実用的価値を具有している。

▲ 図面の簡単な説明

图は実施例を示し、第1図は本案の連結具の斜面閣、第2図は要部の中継板を示す斜面図であり主要符号/は連結桿、1は中継板、3は組曲部、4は質量孔、5は突出部、4は縦長孔、7は把持部、4は碟子、9はスピーカボックス取付部である。

実用新寒發餘出職人 中 馬 使 夫 代 環 人 伊 廉 和 三 等





47-19024-06